

夏休み期間中、縄文杉荒川登山口までの一般車両乗り入れ規制が実施されました。

縄文杉荒川登山口の混雑緩和や、山岳部の環境負荷の低減のため、各関係機関が協力し、8月の夏休み期間中（30日間）、屋久杉自然館から荒川三叉路、荒川登山口までの車両規制を行いました。

それにより、一般車両（マイカー、レンタカー、バイク）は荒川登山口までの乗り入れが規制されました。登山客は、自然館前でシャトルバスに乗り換え荒川登山口に向かいました。

8月1日～8月30日の
シャトルバス利用状況

乗車ピーク日 14日494名
総乗車人数 9,350名
(屋久島観光協会調べ)

屋久島山岳部利用対策協議会により実施された夏休み期間中（30日間）の車両規制は、初めての試みでしたが、期間中特に事故もなく、無事終了いたしました。

皆様のご協力ありがとうございました。



屋久杉自然館前の駐車場
シャトルバスを待つ登山客の様子



講座の成果を発表する学生
パネルディスカッション



～財団職員がそれぞれの想う「屋久島」について語るコーナー～

連載【屋久島を想う】 42



『この島から無くしたいもの=ゴミ』

研修センター勤務：坂本 隼一

私は海が好きで、休日は釣りや素潜りに動んでいます。海といえば魚、貝、サンゴ、そしてゴミ……。漂着物の多さも気になるのですが、何よりもゴミを放置していく心無い釣人を同じ釣人として残念に思います。

数年前、町青年団による環境美化作業“ふるさとクリーンアップ大作戦”が展開され、私も団員として活動しました。「青年団は美化作業団になったのか?!」と思わせるほどゴミ拾い活動ばかりしたことを覚えています。活動する中で最も残念に感じたのは、ポイ捨てされたゴミのほとんどはおそらく地元住民によるものだろうということでした。「屋久島に暮らす私」ではなく「私の暮らす屋久島」という風に皆が思えばポイ捨ては自然と無くなるような気がします。自分達の屋久島を美しく未来へ保ちたいものですね。

開講された目的は？

旧上屋久町、京都大学の主催により、屋久島の自然を研究してきた成果をもとに、博物館的活動をおこない島の振興に役立てようとする「屋久島オープンフィールド博物館」構想の活動の一環として開講されました。

どのようなもの？

屋久島で現地調査を行ってきた研究者を講師に全国から大学生が集まり、屋久島の豊かな自然環境の中で、自分の手足を動かし、自分の目で確かめ、深く考えることを通してフィールドワークの基礎を習得します。十年目を迎え、修了者が二百名を超えました。財団もこの活動を後援しています。

十周年公開シンポジウムを開催

講座最終日の八月二十四日、安房総合センターにて「屋久島野外博物館構想十周年シンポジウム」が開催され、現在までの受講生の発表や、今年度の受講生の研究発表、「学び場としての屋久島をどう生かすか」という題目でのパネルディスカッションがあり、今後のこの事業の展望が活発に議論されました。

屋久島フィールドワーク講座

開講から十周年！

屋久島環境文化村中核施設 イベント/休館日のお知らせ

村センター

休館日 9月22日は開館
9月1・8・16・29日/10月6・14・20・27日

イベント

エントランスホール「屋久島のサゴ」パ 初展 9月1日～

研修センター

休館日
9月8・16・22・29日/10月6・14・20・27日

イベント

星空観察会 11月7日(金)(予定)

まるりんのはひふへホットタイム

(財団職員の「ハア、ウ、フウ、ヘ」な話題をお届けします。)

まるりん通信も今号で99号になりました。

次号は100号記念号となります。お楽しみに。
(シャクナゲ姫)

某焼酎の買い方、判りませんでした。並ぶんだ～！(千一坊)

今年もまだ台風の直撃がありません。屋久島生活3年目、夢は台風を体感です。(星)